

・ 省エネルギー活動と 住まいの中のガスエネルギー

日野 重利 Written by Shigetoshi Hino

新居浜市のLPGガス使用を調査

今後における家庭でのガスの利用

二〇〇一年に省エネルギーセンター主催のエネルギー普及指導員の受講者七名(新居浜市内在住)で、新居浜省エネ研究会を立ち上げ、グループとして講演会、展示会を通じて省エネ普及活動を実践している。さらに省エネ家計簿については平成一七年度に三六世帯の参加・協力を得た。このうち一戸建て二人世帯が最も多く一九世帯であったので、この世帯を経済産業省の四国モデルと比較し、当地の家庭のLPGガスの使用状況を探つてみた。

比較表と省エネ活動からのポイント

(1) 当地のLPGガスの全体の消費割合は四国モデルとほぼ同じ割合(熱量ベースではほぼ同じ約一六パーセント、金額ベースでは各々二一パーセント、一七パーセント)、電力と灯油についても差異は五、六パーセントで、ほぼ同じ範囲内。今後の当地省エネ家計簿調査方法の妥当性について確信を得た。

(2) 安い夜間電力を利用した電気温水器の利用世帯(既存6／36)、同オール電化世帯(既存2／36)がさらに増加傾向にあるが、タルタル金額面、CO₂排出量では必ずしも改善されていない(要継続調査)。

(3) 調理ガスレンジでの火力の強いスピーディな湯沸かし、煮込み、程よい焼き魚料理等には根強い良さを感じる人が多い。

(1) BPF統計による化石燃料の可採年数は、石油..四一年、天然ガス・六七年、石炭・一六〇年、とされており、バランスのよい家庭でのガス利用が重要と考える。

(2) LPGガス等による潜熱回収型給湯器の実用化、さらには家庭向けコードジェネ設備であるエコ・ウイルのLPGガス仕様の開発・実用販売に期待したい。

(3) これまで省エネといえば電気及び電気機器に関することが中心であったが、ガス及びガス設備について関心を深め、効果的なガス利用を考える必要があると思う。

() 愛媛県新居浜市は人口約一三万人、都市ガスはなくLPG供給業者約六〇社が存在する

CEL

日野 重利(ひの・しげとし)

環境カウンセラー(エネルギー管理士、エネルギー教育コーディネーター)、建築コンサルタント(一级建築士、工場建物施設の省エネ)。1937年生まれ。専門はエネルギー。

当地的エネルギー家計簿と
四国モデルとの比較

| 熱量(MJ:メガジュール) 電力 + LPG + 灯油 | |
|------------------------------------|-----------------|
| 当地の調査実績 ¹ 1戸建て、2人/世帯 | |
| | MJ/世帯・月 |
| 電力(kwh) | 1,700 (470) |
| LPG(m ³) | 470 (4.5) |
| 灯油(リットル) | 770 (21) |
| 計 | 2,940 100.0% |
| 四国モデル ² 1戸建て、2人/世帯 | |
| | MJ/世帯・月 |
| | 57.8% (470) |
| | 16.0% (4.1) |
| | 26.2% (15) |
| | 100.0% |

金額換算(円) 電力 + LPG + 灯油

| 当地の調査実績 ¹ 1戸建て、2人/世帯 | |
|------------------------------------|------------------|
| | 円/世帯 |
| 電力 | 8,870 2,730 |
| LPG | 21.4% 1,160 |
| 灯油 | 9.1% 1,300 |
| 計 | 100.0% 12,760 |
| 四国モデル ² 1戸建て、2人/世帯 | |
| | 円/世帯 |
| | 73.3% 13,500 |
| | 17.0% 100.0% |

当地的調査実績 1: '05年新居浜市内19世帯(2人/世帯)の省エネ家計簿より

当地的MJ計算値は有効数字3桁目を四捨五入

四国モデル 2: 経済産業省の四国地域の2人/世帯

'02年度の実績統計